

---

西東京市文化芸術振興計画  
団体・施設ヒアリング報告書(案)

---

平成30年3月  
西東京市



# 目次

---

|                                      |          |
|--------------------------------------|----------|
| <b>1. ヒアリング概要</b> .....              | <b>1</b> |
| 1. 目的 .....                          | 1        |
| 2. ヒアリング対象 .....                     | 1        |
| <b>2. ヒアリングまとめ</b> .....             | <b>2</b> |
| 1. 西東京市の文化に関する状況 .....               | 2        |
| 2. 文化芸術振興における特長 .....                | 4        |
| 3. 文化芸術振興における課題 .....                | 8        |
| 4. 今後、文化政策において取り組むべきこと、展開したいこと ..... | 11       |

# 1. ヒアリング概要

## 1. 目的

○アンケート調査<sup>1</sup>では市民を対象として鑑賞・活動の実態やニーズ等を把握しましたが、ヒアリングでは、西東京市における文化芸術振興の担い手となる団体を中心として、今後の西東京市における文化芸術振興のあり方等を把握することを目的としました。

## 2. ヒアリング対象

○ヒアリングは市内の多様な文化芸術活動に関わる担い手からの意見を把握するため、文化施設、中間支援団体、子供の文化芸術活動、市が近年実施している「対話による美術鑑賞」に関連する団体のほか、西東京市文化芸術振興推進委員や文化芸術活動団体に対して実施しました。

○ヒアリングでは、文化施設や市民団体の活動の場となる施設(下記1～4)を対象として、広く文化芸術活動団体の状況を把握することに努めました。

1. 西東京市民会館
2. 保谷こもれびホール(JNS共同事業体)
3. 西東京市民協働推進センター ゆめこらぼ
4. NIMIC(西東京市多文化共生センター)
5. 西東京市文化芸術振興会
6. 西東京ジュニア・ユース・オーケストラ
7. 市民ボランティア・アートミーる
8. NPO法人芸術資源開発機構(ARDA)
9. 島田雪路氏(西東京市文化芸術振興推進委員、小学校図工教諭)
10. 中村晋也氏(西東京市文化芸術振興推進委員)
11. 西東京シネマ倶楽部

---

<sup>1</sup> アンケート調査は市民の文化への関心や文化的な体験や活動の実態、西東京市の文化的な環境に対する考え方などを把握するため、①18歳以上の市民1,000人に対し、無作為抽出で実施する郵送調査、②文化に関心のない層の意見を把握するためのインターネットモニター調査を実施しました。(2017年12月実施)

## 2. ヒアリングまとめ

前述の団体・施設ならびに個人に対するヒアリングを踏まえ、西東京市の文化芸術振興における特徴や課題についてまとめます。

### 1. 西東京市の文化に関する状況

#### 【施設運営について】

- 市の文化施設として位置づけられている施設はいずれも文化芸術活動が活発な状況であり、保谷こもればいホール、西東京市民会館、コール田無は、165～662席というホール規模から文化芸術活動による利用者が多く、アスタ市民ホールは、多目的に利用可能な広さを生かした利用者が多い状況となっている。
- 西東京市民会館は半年前に利用申請できることや、料金の手頃さから市外からの利用も多い。

#### ■ヒアリングでの意見

- 西東京市民会館は時代の変遷とともに改修され、用途が変化してきた経緯がある。公会堂は 500 人規模で利用料金も安いため、舞台を使った活動はもとより、市民の発表の場や市内外の大学生、企業など幅広く利用されている。(西東京市民会館)
- 貸出施設の利用は7割弱(土日の稼働率はほぼ 100%)で、そのうち市内の利用が6～7割である。定期休業日を設けず、市民が利用しやすいように運営している。(保谷こもればいホール)

#### 【ホールにおける事業について】

- 保谷こもればいホールでは自主事業を年間60本実施している。ジャンルや対象年齢が幅広く、また可能な限り西東京市に関連する内容や出演者に考慮して実施している。
- 市民活動が活発であることを踏まえ、保谷こもればいホールの自主事業のうち10本程は市内でも実績があり、かつ多くの市民に有益なプログラムを市民団体との共催事業として実施している。

#### ■ヒアリングでの意見

- 貸館のほか、鑑賞事業と団体の普及・育成事業を行っている。鑑賞事業では、ジャンルや対象年齢が偏らないように、また可能な限り西東京市にゆかりがあることを考慮し、年間 60 本の自主事業を企画・実施している。(保谷こもればいホール)
- 年間 10 本程を市民団体の事業と共催している。共催の条件は、市内での活動実績が十分であるほか、発表者の満足だけでなく市民にとって有益かどうかを判断基準としている。共催事業のインセンティブとしては、施設料金の免除や広報協力を行っている。(保谷こもればいホール)
- 自主製作映画コンペティションが活動の中心であり、昨年で 16 回目を実施した。最初は 50 作品程度の応募だったが、今では全国から 100～120 作品(最高で 187 作品)ほどが集まっている。保谷こもればいホールの共催事業として実施している。(西東京シネマ倶楽部)

## 【情報発信について】

### ホール等の情報発信

- ▶ 保谷こもれびホールでは公式ホームページでの発信のほか、紙媒体によるイベントニュースを市報と一緒に市内に全戸配布している。
- ▶ 保谷こもれびホールの共催事業は保谷こもれびホールの情報媒体に掲載されるが、それ以外の市民団体の情報発信は各団体によるチラシやチケット販売などで実施されている。
- ▶ 市民協働推進センターゆめこらぼでは、公式ホームページや紙媒体で市民団体の紹介や募集などが行われている。

### 市民団体による情報発信

- ▶ 市民団体による情報発信として、文化芸術振興会が保谷こもれびホールやFM西東京と協力して市内在住の作家などの紹介を行っている。
- ▶ 西東京シネマ倶楽部では、自身の活動を活かした地域情報の映像作成やホームページ・市民映画座での地域コマーシャル上映を実施している。

#### ■ヒアリングでの意見

- イベントニュースを市報と合わせて全戸配布し、情報発信している。発行部数約 10 万部のうち約4千部は各公共施設等に設置し、認知度が向上してきていると思う。(保谷こもれびホール)
- 市民会館の掲示板以外は情報発信していないため、発信力がない。公演等の広報は利用者によるチラシやチケット販売によって実施している。(西東京市民会館)
- ゆめこらぼのホームページで市民団体情報を発信している。(西東京市民協働推進センター ゆめこらぼ)
- 文化芸術振興会の活動として、参加する団体の活動のPRの他、保谷こもれびホールやFM西東京との協力により、市内在住の作家などを紹介している。(西東京市文化芸術振興会)
- 地域密着型の動画情報配信サイトとして西東京TV(インターネットテレビ)の運用に取り組んでいる。自主制作映画コンペティションの作品やスポンサー協賛会員になっていただいた企業のPR動画を作成し、映画上映の前に上映したり、西東京TVで配信している。(西東京シネマ倶楽部)

## 【「対話による美術鑑賞」について】

- ▶ NPO団体と市民ボランティアが中心となり、子供たちの観察力、思考力、コミュニケーション力を養う「対話による美術鑑賞」を実施し、平成29年度は小学校で9回、小学校以外の一般向けの活動も実施している。

#### ■ヒアリングでの意見

- アートミーるは、子供たちが対話をしながらアート作品の見方を深めていくことで観察力、思考力、コミュニケーション力を養う「対話による美術鑑賞」の市民ボランティアとして活動している。平成29年度は小学校で9回、小学校以外の一般向けの活動も実施している。(市民ボランティア・アートミーる)
- 授業では、どんな意見もフラットに取り扱うこと、子供が発言しやすい環境づくりを意識しており、先生方からは「普段発言をしない子供が発言するようになった」、「通常の授業では分からなかった子供の考え方が知ることができた」等の意見が寄せられた。(市民ボランティア・アートミーる)
- 事業を継続しているなかで、学校との連携は密になってきている。学校においても、アートミーるの活かし方を考えてくれる教員や、「対話による美術鑑賞」を普通の授業に取り入れようとしているケースもあると聞いている。(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))

## 2. 文化芸術振興における特長

### 【盛んな市民活動】

- 各関係団体で市の文化芸術活動が活発であることが認識されている。都内複数の文化施設で運営を行っている保谷こもれびホールの指定管理者(JNS共同事業体)からみても、特徴的な傾向であるようである。
- 多様な団体があるだけでなく、各ジャンルで複数の団体があるため、選択肢が多いことが市民の活動のしやすさにも繋がっているようである。

#### ■ヒアリングでの意見

- 西東京市の特徴として、市民による文化芸術活動が活発なことが挙げられる。そのため、活動のきっかけを提供するよりも、団体の協賛をしたり、ワークショップを実施することに力を入れている。(保谷こもれびホール)
- 市民による文化芸術活動が大変盛んである。(西東京市文化芸術振興会)
- 音楽に関しては、合奏や合唱が盛んであり、活動をする機会が多いことが魅力だと思う。市民が活動しようというときに選択肢がたくさんあることは活動しやすいと思う。(西東京ジュニア・ユース・オーケストラ)
- 西東京市の魅力は市民文化祭を実施する時、活動する人の顔が見えることだと思う。(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))

### 【行政から自立した市民活動】

- 西東京市では、行政が組織した文化芸術活動団体がない。資金的に厳しい声もある一方で、各市民団体が独自の活動努力や成果、ネットワークを築いている様子が見られる。
- 行政との適度な距離感であるからこそ、多くの自発的な活動が生まれていることが考えられる。

#### ■ヒアリングでの意見

- 西東京市には行政が組織した文化芸術活動団体がない。助成金をもらって活動するのは良い面もあるが、制約があるのも事実だ。そのようなしなごが西東京市にはないことが良い。(西東京市文化芸術振興会)
- 市民団体と共催している事業は、質も高く、集客力もある。さらに自分たちで顧客管理をしたり、固定客を獲得していたりするので、組織力もあるようだ。(保谷こもれびホール)
- 西東京市は新しいことにチャレンジする姿勢があり、市の担当者も市民目線で協働しやすい自治体である。市内には文化芸術活動をしている人や団体が多い。その人や団体を行政職員が繋いでくれているように感じる。職員が現場に来ることも多く、フットワークが軽いイメージがある。(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))
- 市内で活動していたり、演奏経験のある市民が指導を行っている。資金も参加費で賄っており、完全な自主運営となっている。(西東京ジュニア・ユース・オーケストラ)
- 自主制作映画コンペティションの開催8回目あたりに「当時審査員長をしていただいた監督からレベルが高く、もっと頑張れば国際映画祭に近いレベルになる」と激励の言葉をいただいた。(西東京シネマ倶楽部)

## 【市民活動を支えるホール】

- 文化芸術振興事業においては、文化芸術に関心を持って鑑賞してもらうことから始まり、活動へのステップを踏むことを目指すことが多いが、西東京市では既に活動の素地があるため、団体との協働やワークショップ事業に力を入れられるということである。
- 保谷こもれびホールでは、団体が独立して中長期的に活動ができるようなサポートが行われており、市民目線で運営する施設のあり方が活発な市民活動を後押ししているとも考えられる。
- 市内のホール規模が市民団体の公演や発表に適していることは、市民活動が活発な地域として利点と捉えることができる。
- 保谷こもれびホールはメインホールと隣接したリハーサル室があることや広いホール袖など、設備面でも好評であるということである。

### ■ヒアリングでの意見

- 事業は、文化に関心を持って鑑賞してもらうことが第1ステップであり、ワークショップに参加してもらうことが第2のステップとなる。そこから自分たちで活動してもらうようになるのが第3のステップで、自ら率先して活動を起こしていく人にまでなってもらいたいと考えている。そのようなステップを踏めているという認識があり、事業におけるポジティブな要素である。(保谷こもれびホール)
- 施設は、メインホールの舞台と同じ大きさのリハーサル室があるほか、ホールの袖が広いことで幅広い用途に利用できることから、利用者の評価は高い。(保谷こもれびホール)
- 団体に対して資金面で援助してしまうと、活動を左右することになってしまう。そのため、団体が独立して中長期的に活動ができるようなサポートを意識的に行っている。(保谷こもれびホール)
- 現在の保谷こもれびホールの指定管理者は市民目線で取り組んでいる。市民や利用者の声を聞く姿勢もあり、活動しやすくなっている。(西東京市文化芸術振興会)
- 西東京市民会館の公会堂は 500 人の規模のため興行用には向かず、利用料金も安いと、主に市民の活動の場、発表の場となっている。市民団体や学生の活動にとっては適当なキャパシティなのだろう。(西東京市民会館)

## 【団体の連携について】

- 西東京市文化芸術振興会では、自分たちが受け皿となり、団体との連携や情報交換が可能となっていると認識している。
- 市の施設としては、協働によるまちづくりを推進するため設置された市民協働推進センターゆめこらぼが受け皿になることが想定されているが、学術や文化芸術関係の団体との付き合いは少ないという現状を踏まえると、文化芸術活動団体からの認知を高め、連携を図ることが求められる。そのなかで文化芸術が、その他の市民活動で活かされることも期待される。

### ■ヒアリングでの意見

- 約 10 年前から市民活動は盛んだったが、横の連絡・連携はほとんどなかった。そこで市民の受け皿として西東京市文化芸術振興会を立ち上げた。(西東京市文化芸術振興会)
- 発足当初は参加団体が音楽に偏っていたので、ジャンルを増やさないといけないと感じて、繋がりをつくってきた。最近2~3年で色々な団体や人たちに関わってもらうことができ、現在、会に参加している団体は多岐にわたる。(西東京市文化芸術振興会)

- 会には文化的な活動をしている人だけでなく、文化芸術に関心を持っている人も参加することができる。市内の団体や市民だけでなく、近隣自治体の人でも受け入れている。その緩やかさが若い人の参画に繋がっている。(西東京市文化芸術振興会)
- 西東京市は多摩地域の中でも人口が多い自治体であり、実績のある作家や若手で活動的なアーティストも住んでいる。(西東京市文化芸術振興会)
- 西東京市の市民団体の活動とNPO法人の活動支援を行っており、協働を推進することで市民活動団体等と行政が一緒になり、地域の課題を解決したり、まちづくり等につながる取組になることを目指している。(市民協働推進センターゆめこらぼ)
- まちづくりや子供、環境問題などの課題を解決しようと取り組んでいる団体が多い。学術や文化芸術関係の団体との付き合いは少ない方だ。文化芸術関係の団体が市民協働推進センターゆめこらぼを訪ねていること自体も少ないが、福祉関係施設等での発表や活動が役に立てるような場を紹介して欲しいという要望はある。(市民協働推進センターゆめこらぼ)
- 平成 24 年度から地域連携促進事業として「まちづくり円卓会議」を実施している。公民館と連携して多様な人たちが集まり、地域の課題解決について話し合い、事業間の連携によって社会教育と市民活動を合わせた取組も実施している。(市民協働推進センターゆめこらぼ)

## 【まちとの連携】

- 西東京シネマ倶楽部は、まちから支援を得るだけでなく、自分たちの事業でまちに何らかの還元をするという意向があり、事業のまちへの効果を意識している様子が見受けられる。
- 一方、市民においては、市民が自主的にコミュニティにかかわろうとする機運が見られており、文化芸術活動団体を市民が支える素地があることが伺える。

### ■ヒアリングでの意見

- 保谷こもれびホール市民名画座のチケットは保谷こもれびホールのほか、地元企業の協賛店舗で購入することができる。(西東京シネマ倶楽部)
- 協賛店舗各店に映画のチケットを買う固定客がいて、客との会話のきっかけにもなっているようである。映画による地域振興、商業振興もできればと考えている。(西東京シネマ倶楽部)
- まちや商店はお金を払う場所だが、自分たちの活動が地域に認められれば、まちから支援してもらえる。そのような関係性が生まれることがまちをつくることだと考えている。(西東京シネマ倶楽部)
- 自分のまちのまちづくりにシネマ倶楽部を役立てたいという気持ち強い。まちが明るくなれば、商業振興、文化芸術振興、犯罪の減少にもつながる。シネマ倶楽部の情報や活動を通して市民が生き生きしている様子を見ており、ある程度目的は達成していると思う。(西東京シネマ倶楽部)
- 西東京の魅力は、市民文化祭などのイベントを実施する時、活動する人の顔が見えることだと思う。【再掲】(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))
- 「にわとくら」プロジェクトという取組では、市内の蔵を活用した、市民の場づくりが行われた。市民が集まり、自然とプロジェクトに取り組めるような意識が高い人々が集まっている地域だと思う。(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))
- ひばりが丘では、新しい地域ならではの取組やコミュニティ活動も行われている。ひばりテラス 118 はマンションの住人が自主的に管理するコミュニティスペースで、人と人が繋がるきっかけを与える場になっている。また、ひばりが丘で活動する「まちにわ師」として人材育成も行われている。(中村晋也氏(西東京市文化芸術振興推進委員会))

## 【「対話による美術鑑賞」について】

- 「対話による鑑賞事業」は、NPO団体や市民ボランティアの熱心な活動や学校の協力により、一定の成果が積み上がってきたと認識されている。学校、近隣の大学等と連携を図れており、関係者にも高く評価されている。
- 美術館のない西東京市において、市民ボランティアが主な担い手となり、学校教育という現場で子供たちの創造性に結びつくことみなされている。
- 学校教員の声として、「対話による美術鑑賞」の取組は新学習指導要領に示されている学習観に適合しているという理解が聞かれた。

### ■ヒアリングでの意見

- 美的発達段階の子供たちに事業を通して、自然に見る力や考える力、コミュニケーション力の育成を目的に実施しており、図工教科だけでなく、他の教科や生活態度も改善されたなどの意見をいただいている。(市民ボランティア・アートミー)
- 通常の授業とは異なり、答えのない問いかけに対して、一人ひとりの子供達の意見を尊重しながら対話を進めるため、子供達も意欲的に発言をするようになる。その経験が他の教科なども含め、勉強をすることの楽しさを知ることができたり、互いの意見を認め合うことができるようになる。(市民ボランティア・アートミー)
- 生徒が個で考えることと、生徒同士で話したり、調べたりする外部からのインプットが組み合わされていることが特徴だと思う。「考える力」が身につく取組だと思う。また鑑賞や対話のなかで子供たちが自分を発見できているようにも感じる。(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))
- 新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が提唱されているが、「対話による美術鑑賞」は適合しているのではないかと。(島田雪路氏(西東京市文化芸術振興推進委員会、小学校図工教諭))
- 学校での授業だけでなく、近隣の美術館に訪問したり、武蔵野美術大学の学生の作品を用いて鑑賞したりと美術館、大学等の協力を得ることで、本物の作品を見ることができる。大学側としても地域とのつながりが得られる取組になっていると聞いている。(市民ボランティア・アートミー)

### 3. 文化芸術振興における課題

#### 【文化施設の長期的な維持管理】

- 保谷こもれびホールは開館から約20年目という時期に当たるため、**中長期的な目線で計画し、**施設の維持を図り、現場でもメンテナンスの必要性が認識されている。

##### ■ヒアリングでの意見

- 保谷こもれびホールは、開館から 20 年経つため、中長期的な目線で計画して修繕等メンテナンスを実施していかなければいけない。貸出設備のメンテナンスも取り組んでいる。(保谷こもれびホール)

#### 【施設等の条件にあった事業のあり方】

- 保谷こもれびホールの規模は大きくはないことから、興行性が高く、集客力のある公演は実施しにくいと考えられる。そのなかで市民を文化芸術活動へとつなげていく事業は有効だが、実際に活動する人(関心のある人も含む)と事業をつなげる取組が必要だと言える。
- 一方、規模の制約はあるとはいえ、活動が鑑賞することから始まることを考えると、鑑賞機会をどのように提供していくかは検討する必要がある。

##### ■ヒアリングでの意見

- 保谷こもれびホールの規模では、**興行性が高く、集客力のある公演は難しく、市民の多様な世代に向けた、様々なジャンルの公演を実施している。**(保谷こもれびホール)
- 活動している層と鑑賞する層は違うようだ。ホールで発表会をしている人を想定して事業を企画しても、来てもらえなかった。(保谷こもれびホール)
- 発表のための機会は多く、活動をしている人に対する支援は多いように感じるが、鑑賞機会はそれほど多くはない。鑑賞機会を増やすとともに、鑑賞者を育てることも重要だと思う。(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))

#### 【団体の連携】

- 西東京市文化芸術振興会を受け皿に各団体や活動の連携が起きている一方で、連携の難しさや交流が見えないという声も聞かれた。
- 西東京市民協働推進センターゆめこらぼのような市の施設が、芸術文化活動団体との連携を広めることで、個人的な繋がりを超えたネットワークや、ジャンルに偏らない繋がりをつくることが求められる。

##### ■ヒアリングでの意見

- 約 10 年前から市民活動は盛んだったが、**横の連絡・連携はほとんどなかった。そこで市民の受け皿として西東京市文化芸術振興会を立ち上げた。【再掲】(西東京市文化芸術振興会)**
- 市民活動は活発だとは思いますが、基本的には各々の活動に留まっており、団体の枠を超えた繋がりを作ることは難しいようである。(西東京市民協働推進センター ゆめこらぼ)
- 市民活動団体の活動の場を広げたり、他の団体と繋いでほしいという要望を受けている。団体活動がもっと市民に認識されるためにも、情報発信や連携を強化していかなければならない。(西東京市民協働推進センター ゆめこらぼ)
- 様々な文化団体があるが横の連携が見えないため、横の連携による楽しい催しがあると良い。(中村晋也氏(西東京市文化芸術振興推進委員会))

## 【行政の支援に対する要望】

○各市民団体の自立的な活動が見られる一方で、資金的な課題が多く聞かれた。また広報や活動に関わる場所の確保など、資金以外でも公的な機関に対するニーズがある。

### ■ヒアリングでの意見

- 団員が減ってきており、その確保が課題だ。団員が減ると、オーケストラとして公演を行う際にエキストラを補てんしなければいけない。(西東京ジュニア・ユース・オーケストラ)
- 練習場が公民館であることの制約もある。毎回、公民館に楽器を運ばなければならないのだが、大きな楽器もあるので負担だ。公民館に倉庫を借りることができるとうれしい。(西東京ジュニア・ユース・オーケストラ)
- 市に対しては、小・中学校にチラシを配布してもらうような、支援がたくさんあると良い。(西東京ジュニア・ユース・オーケストラ)
- 市民や団体が持ち出しで活動しているが、もう少し助成金などの環境が整っていると良い。(中村晋也氏(西東京市文化芸術振興推進委員会))

## 【情報発信における課題】

### ホールの情報発信

- ホールにおける鑑賞者の多くが高齢者であるため、主な情報発信は広報などの紙媒体や口コミで実施されており、SNS等インターネットを利用した情報発信は効果面から見ても積極的ではない。しかし、新たな来場者の確保など、地域の文化施設として事業を継続的に実施するためにも、集客の向上は必要であると認識されている。

### ■ヒアリングでの意見

- SNSの活用については、現時点では高齢者の利用が多く、要望も聞かないため、あまり効果的ではないと考えている。(保谷こもればホール)
- 事業面では、施設の立地条件があまりよくないことを踏まえ、集客の向上を図る必要がある。情報発信に関しても、イベントニュース以外の発信力の向上に努めなければならない。(保谷こもればホール)
- 西東京市民会館は掲示板以外の情報発信はしていないため、発信力がない。公演等の広報は利用者によるチラシやチケット販売によって実施している。(西東京市民会館)

## 市民団体のPR

- 各市民団体が自分たちを知ってほしいという要望がある一方で、その受け皿となる媒体が十分でないと認識されている。各活動団体とそれを必要としている人、地域で活動を始めたいと思っている人などのマッチングが必要であると考えられる。

### ■ヒアリングでの意見

- 団体は自分たちのプレゼンスを知ってほしいという要望が多い。ゆめこらぼのホームページでも発信しているものの、市のホームページには太刀打ちできない。市のホームページの発信力を活かして、団体のPRを支援することも大事ではないかと考えている。(西東京市民協働推進センター ゆめこらぼ)
- 最近は市民活動と市民との間にギャップやハードルがあると思う。団体も高齢化している一方で、地域でデビューできない方がいるのも課題である。(西東京市民協働推進センター ゆめこらぼ)
- 市民にとって団体の活動が見えないため、どんな時間にどんな場所でどんな活動をしているのかが見えると活動に参加する市民も増えるのではないかと。(西東京市民協働推進センター ゆめこらぼ)

## 【「対話による美術鑑賞」について】

- 実際に事業を知っている関係者等からは取組に関する評価が高い一方で、認知度の低さや事業を継続していくにあたって、独立した組織としての自立化に向け課題があることが関係者で共有されており、検討が始まっている。
- 「対話による美術鑑賞」の関係者においては、今後も取組を継続していくために、活動の組織体制についての検討が行われている。

### ■ヒアリングでの意見

- 活動や意識の違いはありながらも、アートミーアのメンバーは意識を高くもち、積極的に取り組んでいる。しかし、現状は市の事業に関わるボランティアであり、独立した組織として事業を実施するには課題がある。ボランティアのメンバーも3期目が加わり、経験も重ねているため、授業自体はボランティアのみでも実施できるが、そのための勉強会や準備、組織としての運営までには課題がある。(市民ボランティア・アートミーア)
- 主に学校の中で実施している活動であるため、市民には取組が認識されにくい。子どもたちが学習する環境や市の取組、地域に関わることができることが非常に有意義である。(市民ボランティア・アートミーア)
- 対話による美術鑑賞の授業を実施していく中で、学校の先生の日もシビアになり、活動の質を維持していくためにも今後の運営や組織のあり方は大きな課題である。(市民ボランティア・アートミーア)
- 当初から子供の教育とともに人材育成という観点もあり、ボランティアの育成に取り組んできた。アートミーアが自立して事業を実施できると良い。ボランティアは40人程度集まり、意欲も責任感もあるが、現状では団体として自立するには課題がある。(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))
- 知識を教えるだけでなく子供たちと一緒にしていく活動であるため、団体としての活動方針をきちんと持って動かなければならない。組織としての自立を目指すためには、活動の中心となるコーディネーターをどのように育てていくのが課題である。(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))
- 実施するにあたっては事前準備に時間がかかる。前日の打ち合わせや当日の準備など、実施する側としてクオリティを高めたいという考えは分かるが、学校としては時間割があるので負担に感じることもあるだろう。(島田雪路氏(西東京市文化芸術振興推進委員会、小学校図工教諭))

## 4. 今後、文化施策において取り組むべきこと、展開したいこと

### 【文化芸術活動の場について】

- 保谷こもれびホールでは、施設内に留まらず、地域と連携することで、市全体が文化芸術の盛んなまちをつくっていききたいとの意見が得られた。そして、コミュニティの活性化に寄与するため、ホールの利用を促し、存在感を高めていききたいということである。
- 活発な文化芸術活動や市内の文化施設のあり方を踏まえ、文化芸術活動を支える場の提供が重要であるという認識が得られた。

#### ■ヒアリングでの意見

- 少子高齢化が進むなか、地域コミュニティの活性化は文化芸術振興にもつながる。コミュニティの活性化という観点からも、保谷こもれびホールに足を運んでもらうことも大事なのではないかと思う。文化に関心のある人はもちろん、そうでない人にも足を運んでもらえるようにしていきたい。(保谷こもれびホール)
- 保谷こもれびホールを拠点として、市のエリア全体が盛んなまちをつくっていききたい。例えば、市民まつりや地域のイベント活動にも積極的に参加して、人々が活動する場をつくっていききたいと考えている。(保谷こもれびホール)
- 市民による文化活動が大変盛んである。今後は 20 万人都市にふさわしいホールのあり方や、練習場の確保についても提言していきたいと考えている。(西東京市文化芸術振興会)

### 【子供の鑑賞機会について】

- 子供が身近に文化芸術に触れる取組の充実について意見が得られた。

#### ■ヒアリングでの意見

- オーケストラを聞いたことのない子供や家庭が、いきなりホールでのリサイタルに出かけることはハードルが高いと思うので、ひとつの段階として機会をつくれると良いと思う。(西東京ジュニア・ユース・オーケストラ)
- 市内には美術館がないため、親が連れていけないかぎり子供が「本物」に触れる機会が少なくなってしまう。近隣の練馬区や板橋区の美術館を活用し、学校のバスツアーで回れると良いと思う。(島田雪路氏(西東京市文化芸術振興推進委員会、小学校図工教諭))

### 【文化の担い手について】

- 市民が地域との結びつきや健康、やりがい、楽しみが得られるような継続的な文化芸術活動ができるよとの意見が得られた。
- 市内で活動している文化の担い手を発信していく取組について意見が得られた。

#### ■ヒアリングでの意見

- 地元で貢献したいと思う人もいると思うので、市内在住の作家を協会で紹介していきたいと考えている。(西東京市文化芸術振興会)
- 地域の方がリタイア後も引きこもりにならず、地元と繋がっていけるように促すだけでなく、健康ややりがいも大切にしながら、楽しみも含めた団体活動の繋がりができると良いと思う。継続性が大事である。(西東京市民協働推進センター ゆめこらぼ)

## 【文化芸術振興について】

- 文化芸術振興においては、市民による特徴的な活動が活発に行われていることを魅力として打ち出していくことの他、ハードよりも運営や人材等、ソフト面を重視すべきなどの意見が得られた。
- 多様な人々がいることをポジティブに考える認識を広めていく必要性について意見が得られた。

### ■ヒアリングでの意見

- 文化的な振興としては、西東京シネマ倶楽部のような特徴的な活動を打ち出していくことで、そのような活動が活発な地域であることを魅力にしていけると良いのではないかと。(西東京市民協働推進センター ゆめこらぼ)
- 市内に住んでいる外国人も多様化しており、1～2人しかいない国も多い。中国など人口が多い国籍の人はいるが、その人々でコミュニティをつくっているわけでもない。多様な人々がいることが楽しいことであるという認識を市民にも持ってもらいたいと思っている。また、西東京市日本語スピーチコンテストなどのイベントを通じて多文化共生への理解を広めることも重要だと考えている。(NIMIC(西東京市多文化共生センター))
- 市内には、アートミーるのような活動は一切なかった。西東京市民会館などのハード面も大切だが、よりソフト面がもっと大事であり、それを活かす人、運営について考えられる人が大事である。(NPO法人芸術資源開発機構(ARDA))